

フロンティアスクール報告書

都道府県名	広島県
-------	-----

I 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	佐伯郡湯来町立湯来東小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7	13
児童数	18	7	13	11	14	14	1	78	

II 研究の概要

1. 研究主題

児童一人一人に基礎・基本の定着を図る指導のあり方 ～一人一人の考える力を育てる授業づくり～
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>全学年 国語科 全校児童の学力実態として、「考える力」、特に、「書く力」の定着が低いため。</p> <p>全学年 算数科 全校児童の学力実態として、「数学的思考力」の定着が低いため。</p> <p>※ 尚、「読み・書き・計算」の力を育てていきたいため、国語科、算数科を中心にして、昨年度からの研究課題を継続し、全校で取組みを進めていく。</p>
---

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>○テーマ 児童一人一人に基礎・基本の定着を図る指導のあり方 ～「読み」「書き」「計算」を中心に～</p> <p>○研究の見通し（仮説） 書き・計算をすべての学級で継続的に取り組めば、児童一人一人に基礎・基本が定着するであろう。</p> <p>○研究の内容・方法 〔繰り返し学習による基礎的・基本的学習内容の習得と教材開発〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音読・暗誦 学年ごとに10編くらいの詩などを選び、音読暗誦集を作成する。国語科授業開始の2分程度を使用し、音読・暗誦していく。また、音読暗誦カードを作り、家庭学習として実施していく。</li> <li>・漢字学習 新出漢字を2学期中に終了させ、3学期は総復習とする。漢字検定プリントを作成し、習得状況をチェックする。</li> <li>・計算練習 “5までの分解・合成”から“約分”までの四則計算プリント（19タイプ、57パターン）を作成する。算数科授業の毎時間、2分間を使用し、計算練習を行う。また、正解数とタイムを記録していき、個々の進歩の状況を確認していく。</li> </ul>
--------	--

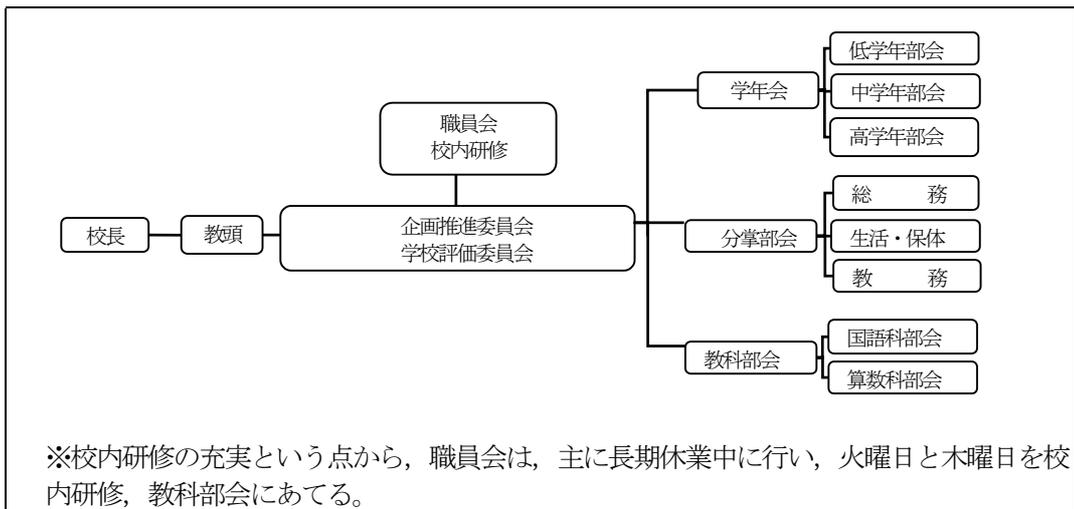
	<p>〔個に応じた指導方法の工夫改善〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科担任制 第5・6学年において、国語科と算数科で実施する。</li> <li>・複数教員による指導 個人差があらわれやすい算数科において、全学年対象に、個別指導、課題別指導、習熟度別指導を行う。</li> </ul>
--	---

平成15年度	<p>○テーマ 児童一人一人に基礎・基本の定着を図る指導のあり方 ～一人一人の考える力を育てる授業づくり～</p> <p>○研究の見通し 作文指導、文章題指導や繰り返し学習などを通して、個に応じたきめ細かな指導と評価を行えば、子どもたちは自らの課題克服に向けて意欲的に取り組み、「考える力」を高め、確かな学力を身につけるであろう。</p> <p>○研究の内容・方法</p> <p>〔一人一人の考える力を育てる取組み〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・論理的思考力を育てるための国語科での作文指導、算数科での文章題指導</li> <li>・「深く考える」「筋道立てて考える」力を育てるための授業の創造</li> </ul> <p>〔個に応じた指導方法の工夫改善〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複数教員による少人数指導（全学年算数科での習熟度別指導）</li> <li>・教師の専門性を生かした教科担任制（第5・6学年国語科・算数科）</li> <li>・発展的な学習の教材開発</li> </ul> <p>〔繰り返し学習の継続による基礎的・基本的学習内容の習得〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音読暗誦（「音読暗誦集」の活用 授業開始の2分間）</li> <li>・漢字学習（配当漢字を2学期までに終了、3学期に総復習 1日1ページの家庭学習）</li> <li>・朝の読書（月～金〔水曜日は体力づくり（家庭読書の日）〕の毎朝10分間 読みたい本を読み、「本好きカード」に読んだページ数を記録していく。1年間50冊目標）</li> <li>・ボランティアによる本の読み聞かせ（低・中・高学年別 毎週金曜日）</li> <li>・四則の計算練習（昨年度開発したプリントを用いて、授業開始の2分間）</li> </ul> <p>〔評価を生かした指導の改善〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学力・意識の実態把握（基礎・基本定着状況調査、CRT学力調査、学校評価）</li> <li>・国語科・算数科の評価規準表・個人カルテの作成と活用</li> </ul> <p>〔小・中連携教育の推進〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科、算数科のカリキュラムの作成 つまずきを克服する手だてとして、9年間を見通した国語科、算数科の領域別カリキュラムを作成し、系統的な指導を行うとともに、個に応じたきめ細かな指導を行う。</li> <li>・中学校教師による「みのちレッスン」の導入 <ul style="list-style-type: none"> <li>①第6学年算数科に中学校の教員と習熟度別指導を行う。（年間35時間）</li> <li>②総合的な学習の時間に「英語活動」を設け、中学校の教員を招聘して、AETと連携をとりながら授業交流を行う。年間70時間（中学年35時間・高学年35時間）</li> </ul> </li> <li>・個人カルテの作成 国語科、算数科の個人カルテを作成し、学年間の接続をスムーズにしていくとともに、児童のつまずき等記録していくことにより、個に応じた指導方法の改善を図る。</li> </ul>
--------	--

	<p>[指導力の向上]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各担任年間3回以上の研究授業実践</li> <li>・授業評価表による相互評価</li> <li>・講師による模擬授業参観</li> </ul> <p>※ 年次計画では、国語科で、作文指導内容と言語環境の整備、言語事項の繰り返し学習を関連させた指導を中心に研究を進めていくこととしていたが、「考える力」を育てる視点から、算数科の文章題指導も重点的な課題とし、「書く活動」を取り入れた指導を中心に研究を進めていくことにした。</p>
--	---

平成16年度	<p>○テーマ</p> <p>児童一人一人に基礎・基本の定着を図る指導のあり方 ～自ら考える力を育てる授業の創造～</p> <p>○研究の見通し</p> <p>主体的な学習態度を育て、「聞く・話す活動」を中心とした授業を創造すれば、子どもたちは、自らの課題克服に向けて意欲的に取り組み、「考える力」を高めることができるであろう。</p> <p>○研究の内容・方法</p> <p>[自ら考える力を育てる取組み]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思考を深める授業づくり（多様な考えを引き出す発問など）</li> <li>・「聞く・話す力」を育てるための話し合い活動を中心とした授業の創造</li> <li>・「書く力」を育てるための作文指導と文章題指導</li> <li>・主体的な学習態度の育成（家庭学習の習慣化、基本的な生活習慣と学習規律）</li> </ul> <p>[個に応じた指導方法の工夫改善]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複数教員による少人数指導（算数科・国語科での習熟度別指導・個別型指導）</li> <li>・国語科・算数科の個人カルテの作成と活用</li> <li>・発展的な学習教材の充実</li> </ul> <p>[繰り返し学習の継続による基礎的・基本的学習内容の習得]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音読暗誦（授業開始の2分間）</li> <li>・漢字学習（配当漢字を2学期までに終了させ、3学期に総復習。1日1ページの家庭学習）</li> <li>・朝の読書（月～金 [水曜日は体力づくり（家庭読書の日）] の毎朝10分間）</li> <li>・ボランティアによる本の読み聞かせ（低・中・高学年別、3週間に1回）</li> <li>・四則計算練習（授業開始の2分間）</li> </ul> <p>[小・中連携教育の推進]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校教師による「みのちレッスン」の導入       <ol style="list-style-type: none"> <li>①第6学年算数科に中学校の教員と習熟度別指導を行う。（年間35時間）</li> <li>②総合的な学習の時間に「英語活動」を設け、中学校の教員を招聘して、AETと連携をとりながら授業交流を行う。年間70時間（中学年35時間・高学年35時間）</li> </ol> </li> </ul>
--------	---

(3) 研究推進体制



### III 平成15年度の研究の成果及び今後の課題

#### 1. 研究の成果

#### 1 研究前の児童の状況及び課題

〔国語科〕 基礎・基本定着状況調査 (昨年度)

項目	東小 (%)	県 (%)
聞くこと	82.2	71.7
読むこと	76.7	61.1

項目	東小 (%)	県 (%)
接続詞の選択	74.5	66.7
段落の選択	20.0	36.5
文の選択	89.2	84.5
相手や目的に応じた記述	66.7	77.7
書くこと	77.7	61.1

○「書くこと」の通過率は、やや県平均を下回る  
 ○「接続詞の選択」や「段落の選択」, 「相手や目的に応じた記述」の通過率が県平均を下回る。  
 →言語事項と関わり、作文指導で相手・目的意識、構成能力を育てる必要がある。

#### 児童の作文に対する意識調査

文章を書くことは好きですか

学年	好き (%)	どちらかといえば好き (%)	どちらかといえば嫌い (%)	嫌い (%)
6年	22	50	22	7
5年	29	43	21	7
4年	46	27	21	6

#### 嫌いな理由

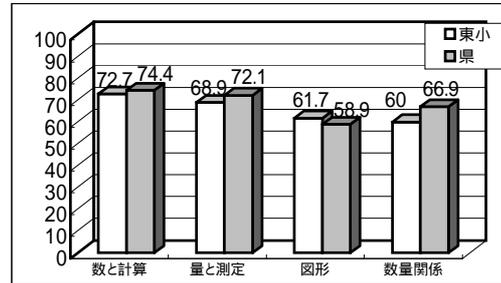
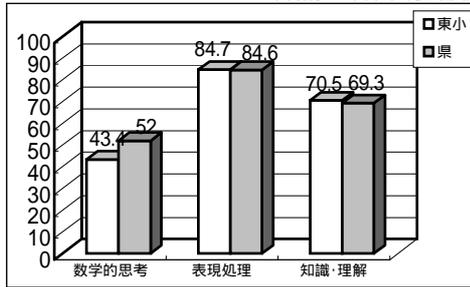
中学年	詳しく書いたりするから。考えても全然思いつかない。文章を思い浮かべにくい。
高学年	文章を書くときの文が思いつかない。思ったことを文章に表せないからイライラする。どういう風に書いてよいか分からないから迷ってしまう。

○28%に児童は、作文が嫌いと答えている。  
 ○児童にとっては、作文を書く上での条件が多すぎ、そのことが児童を混乱させ作文嫌いを作っていると考えられる。  
 →ただ書かせればよいというのではなく、児童が書きたくなるような指導法を考えていく

必要がある。

〔算数科〕

基礎・基本定着状況調査（昨年度）



○数量関係の通過率が、県平均を下回る。

○数学的思考力が、他の観点より低く、県平均に比べても10%以上下回る。

→論理的な思考ができ、思考の過程が児童の目に見えるよう、式が導かれる思考の道筋を大切に授業の工夫改善を図っていく必要がある。

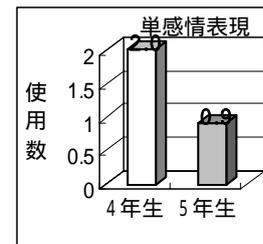
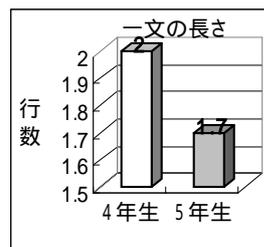
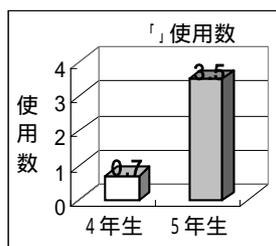
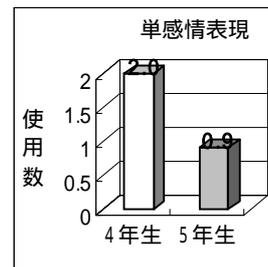
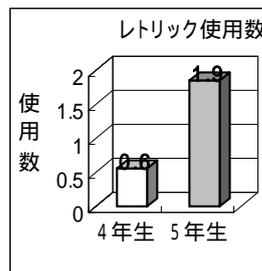
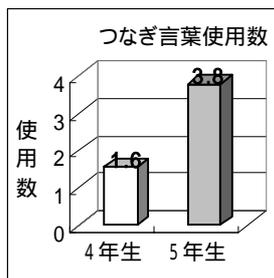
2 考える力を育てる取組み

〔作文指導〕

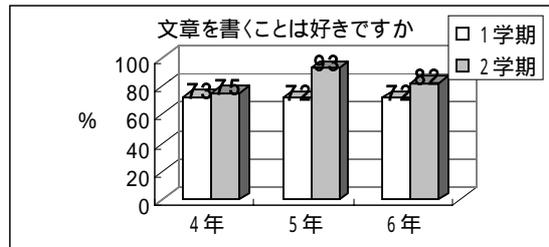
指導者は指導すべき課題を、児童は自分の作文をより良くするにはどういった点に気を付けたらよいかははっきり見えるものにしたと考え、共通のテーマで書いた前学年時の作文と比較し、作文力の伸びを分析した。高学年児童にも次の表を使い文を点検させた。

漢字数	行数	文数	行数/文数	漢字数/行数	段落	文数/段落
「 」						形容詞による単感情表現
会話	内心	添加	順接	逆接	その他	
レトリック						
修飾語	比喩	対比・反復	慣用句	体言止め	擬音態	

第5学年1年間の伸び



- どの観点においても伸びが見られ、作文の技能が確実についてきていると考える。
- 自分の作文を常に振り返らせたり、点検させたりしながら活動させたことにより、子どもたちは、自分の力を具体的に把握することができ、作文学習に活かされてきた。
- 1学期は好きな理由を「おもしろいから」「いろいろなことが書けるから」といった簡単な理由が多かったが、2学期末では、「自分の考えを楽しく書けるから」「自分だけの作文が書けて楽しめるから」「人に読んでもらえるのが楽しみだから」といった、具体的な理由が書かれており、子どもたちに、作文を書くおもしろさ（何が楽しいのか）が実感できるようになってきたと捉えられる。



#### 取組みの具体

- 国語科の授業の内、毎週1時間を作文の時間（年間35時間）
  - 本校独自の原稿用紙の活用  
低学年84文字 中学年144文字 高学年200文字
  - 短作文指導によるめあての明確化
    - ・1時間のめあてを絞り、子どもたちに明確に持たせることで、課題を一つずつクリアし、苦手意識を克服させていく。
- 例 1Hを意識して 時間の順序に沿って 説明文、報告文、招待状の書き方 書き出しの工夫（4年児童）



- 書く活動と話す活動の連動
  - ・お互いの意見を出し合ったり聞き合ったりする場を設定することにより、書く内容をふくらませ、書く活動につないでいく。
- 自己評価カード及び相互評価カード 「作文わくわくカード」の活用

・その時間のねらいを常に意識させて書かせたり、お互いの作文のよいところを見つけさせたりすることにより、励みや意欲付けを行う。

○6年間の作文のファイル化

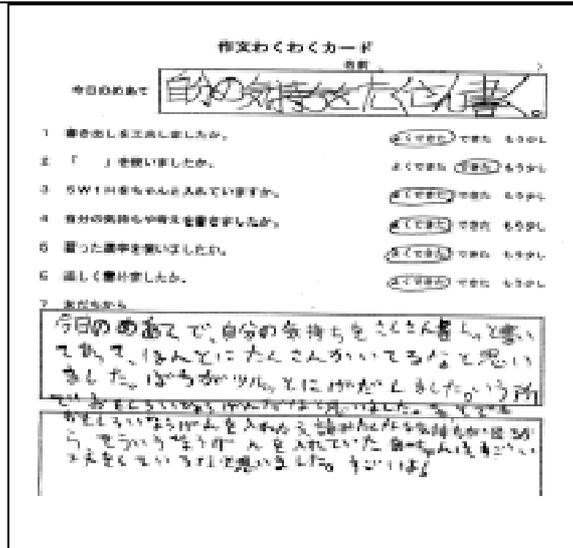
・既習事項を振り返り、作文学習に生かしていくとともに、書いたことへの自信を持たせる。

○全校共通課題を決めて取り組む

- ・「1学期を振り返って」
- 「夏休みの思い出」
- 「水泳記録会」
- 「運動会」
- 「文化祭」

○作文カルテの活用

・指導の重点化を図り、児童一人一人の課題をつかみ、次への指導に生かす。

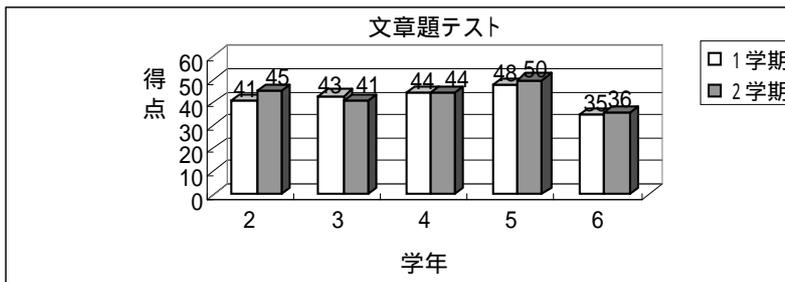


実施日・題材	月 日 ( )	題材名	書く能力					言語についての知識・理解・技能				
			ア	イ	ウ	エ	オ	①	②	③	④	⑤
内容	関心・意欲・態度	書く能力	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
評価規準 A: 十分満足できる B: おおむね満足できる C: 努力を要する	関心・意欲・態度 A: 心からの関心・意欲が感じられること。 B: 関心・意欲が感じられること。 C: 関心・意欲が感じられること。	書く能力 A: 必要整文要素を適切に用いて、意図を明確に伝えることができること。 B: 必要整文要素を適切に用いて、意図を明確に伝えることができること。 C: 必要整文要素を適切に用いて、意図を明確に伝えることができること。	① 日・時	② 取材	③ 構成	④ 記述	⑤ 排・并	⑥ 文字	⑦ 表記	⑧ 語句	⑨ 構成	⑩ 言葉遣い
評価する能力 書く能力	関心・意欲・態度 A: 心からの関心・意欲が感じられること。 B: 関心・意欲が感じられること。 C: 関心・意欲が感じられること。	書く能力 A: 必要整文要素を適切に用いて、意図を明確に伝えることができること。 B: 必要整文要素を適切に用いて、意図を明確に伝えることができること。 C: 必要整文要素を適切に用いて、意図を明確に伝えることができること。	① 日・時	② 取材	③ 構成	④ 記述	⑤ 排・并	⑥ 文字	⑦ 表記	⑧ 語句	⑨ 構成	⑩ 言葉遣い
言語（知識）	関心・意欲・態度 A: 心からの関心・意欲が感じられること。 B: 関心・意欲が感じられること。 C: 関心・意欲が感じられること。	書く能力 A: 必要整文要素を適切に用いて、意図を明確に伝えることができること。 B: 必要整文要素を適切に用いて、意図を明確に伝えることができること。 C: 必要整文要素を適切に用いて、意図を明確に伝えることができること。	① 日・時	② 取材	③ 構成	④ 記述	⑤ 排・并	⑥ 文字	⑦ 表記	⑧ 語句	⑨ 構成	⑩ 言葉遣い

[文章題指導]

文章題については、「考える力」を育てる視点から、単に答えが合っているかだけで評価するのではなく、答えを導くまでの考え方を重視し、絵や図、式、答えに分けて採点する。それを各学期で比較し分析した。

文章題プリント学期ごとの伸び



○1学期に比べ2学期はやや伸びが見られた。



・自力解決学習

いる。高学年では、ほとんどがそうである。  
 条件過剰（問題を解く上で必要ない数値）の問題も含まれている。  
 式を教えるのではなく、考えることを教える。考えが目に見えるように、図や表、絵などを描き、様々な方法で試行錯誤させる。  
 問題場面の読みとり→数量関係の把握→答え→式  
 教師は、机間指導しながら、スモールステップで個別指導する。  
 助言は、いくつかの段階に区切って与え（子どもが考えるべきところを横取りしないよう、1問1答の指導をしない）、十分に考える時間をとる。  
 正解している場合は、その場で誉めながら○をつけていく。

○その他

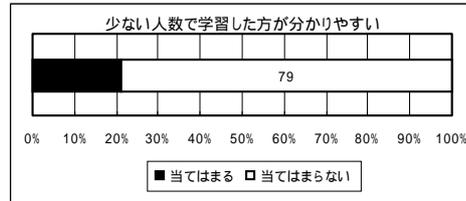
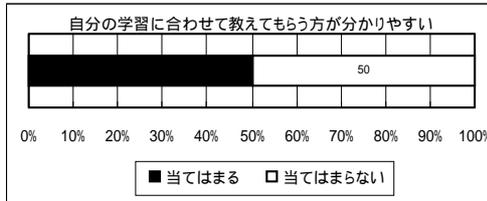
・教科書単元の中の文章題を行う時も、同一演算の問題でなく、演算決定の先入観をもたせないよう混合の問題を出題、配列して行う。

3 個に応じた指導方法の工夫改善

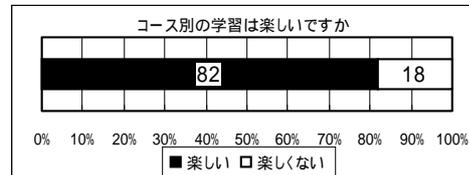
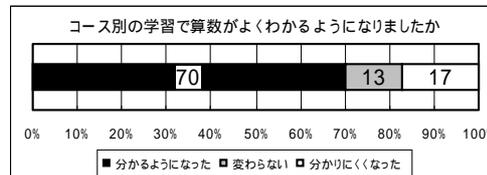
[少人数指導]

- ①第1学年～第6学年 算数科 全単元
- ②習熟度別指導 第2学年～第6学年
- ③水内レッスン（中学校教員による授業交流）第6学年対象 週1時間 年間35時間
- ④発展的な学習プリント作成（算数科全学年全単元）

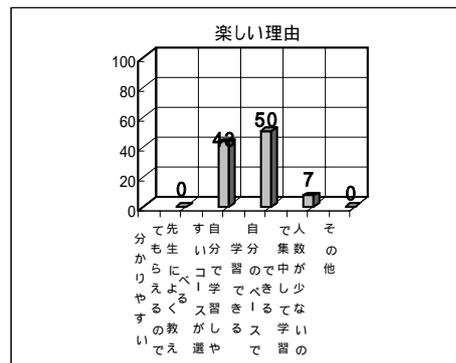
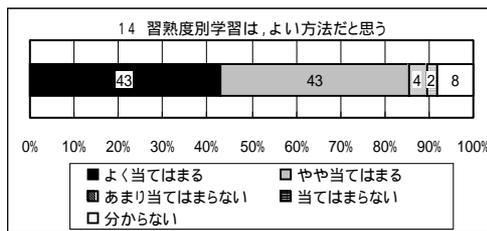
6月（基礎・基本定着状況調査）



1月（学校評価）



保護者の意識（1月）



○学力の低い子や学習ペースの遅い子には、考える時間を保障することができるようになり、じっくり考え、自己を表現しながら取り組めるようになってきた。また、学力の高い子は、発展的な学習を取り入れることにより、難しい問題にも進んで取り組み、より深く考えられるようになってきた。このことが、子どもたちの要求を満足させるものとなっていると考える。

○個に応じたきめ細かな指導をすることができ、児童のつまずきに対しても即座に気づき、手だてを講じることができるようになった。そのことが、子どもたちにとっては、一



小・中の9カ  
年のカリキ  
ュラム作成  
とも関連さ  
せて小・中連  
携の資料と  
もなる。

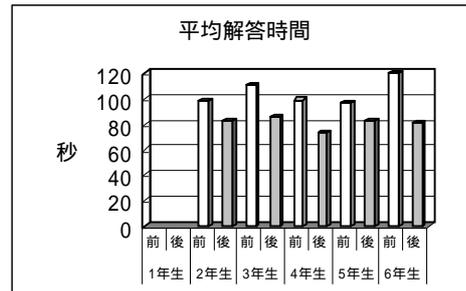
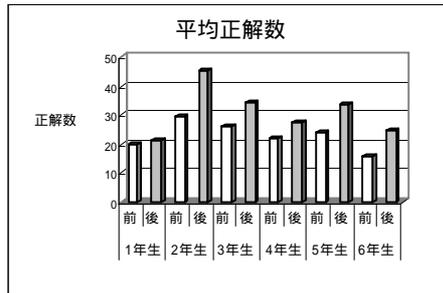
学習活動	学習活動でやること	ねらいの達成でやること
「暗算を速く、正確、楽 しくできるように練習する」	・「暗算を速く、正確、楽 しくできるように練習する」 の目標を達成するために、 1. 暗算の練習方法を工夫する。 2. 暗算の練習方法を工夫する。 3. 暗算の練習方法を工夫する。 4. 暗算の練習方法を工夫する。 5. 暗算の練習方法を工夫する。	・「暗算を速く、正確、楽 しくできるように練習する」 の目標を達成するために、 1. 暗算の練習方法を工夫する。 2. 暗算の練習方法を工夫する。 3. 暗算の練習方法を工夫する。 4. 暗算の練習方法を工夫する。 5. 暗算の練習方法を工夫する。
「暗算を速く、正確、楽 しくできるように練習する」	・「暗算を速く、正確、楽 しくできるように練習する」 の目標を達成するために、 1. 暗算の練習方法を工夫する。 2. 暗算の練習方法を工夫する。 3. 暗算の練習方法を工夫する。 4. 暗算の練習方法を工夫する。 5. 暗算の練習方法を工夫する。	・「暗算を速く、正確、楽 しくできるように練習する」 の目標を達成するために、 1. 暗算の練習方法を工夫する。 2. 暗算の練習方法を工夫する。 3. 暗算の練習方法を工夫する。 4. 暗算の練習方法を工夫する。 5. 暗算の練習方法を工夫する。
「暗算を速く、正確、楽 しくできるように練習する」	・「暗算を速く、正確、楽 しくできるように練習する」 の目標を達成するために、 1. 暗算の練習方法を工夫する。 2. 暗算の練習方法を工夫する。 3. 暗算の練習方法を工夫する。 4. 暗算の練習方法を工夫する。 5. 暗算の練習方法を工夫する。	・「暗算を速く、正確、楽 しくできるように練習する」 の目標を達成するために、 1. 暗算の練習方法を工夫する。 2. 暗算の練習方法を工夫する。 3. 暗算の練習方法を工夫する。 4. 暗算の練習方法を工夫する。 5. 暗算の練習方法を工夫する。

### 5 繰り返し学習の継続による基礎的・基本的学習内容の習得 〔計算練習〕

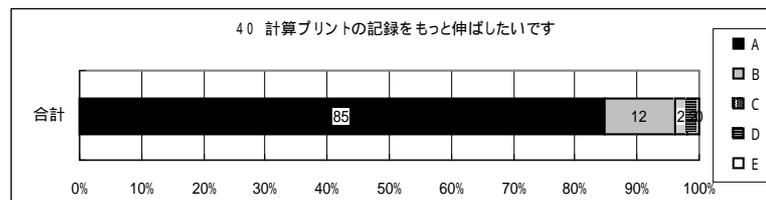
算数の毎時間の授業において、2分間、主として暗算のできる基本的な計算練習を行う。正解数とタイムを記録していき、個々の進歩の状況を確認する。

昨年度作成した6年間にわたるプリント（“5までの分解・合成”から”約分”までの19タイプ、57パターン）を学校全体で系統的に取り組んでいく。

4月と10月の比較（2分間50問）



### 児童の意識



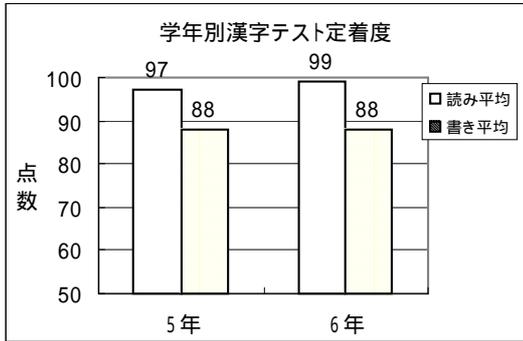
○2分以内で50問解けなかった児童が解けるようになってきている。また、計算が得意で2分以内で解けていた児童も、50問解くまでの時間が確実に短くなっている。

○児童の学校評価アンケートでの「計算プリントの記録をもっと伸ばしたいです」という項目では、85%の児童がよく当てはまる、12%の児童がやや当てはまると答えている。自分の進歩がはっきりと分かるため、意欲的に取り組んでいる。意識調査からも児童が意欲的に取り組んでいることが分かる。

### 〔漢字指導〕

新出漢字を2学期中には終了させ、以降はその定着を図るために総復習の時間とする。学校で書き順や意味などを指導し、家庭では毎日漢字練習をする。学年別漢字プリント（昨年度作成）を適宜行っていく。

年度末に漢字検定テストを行う。



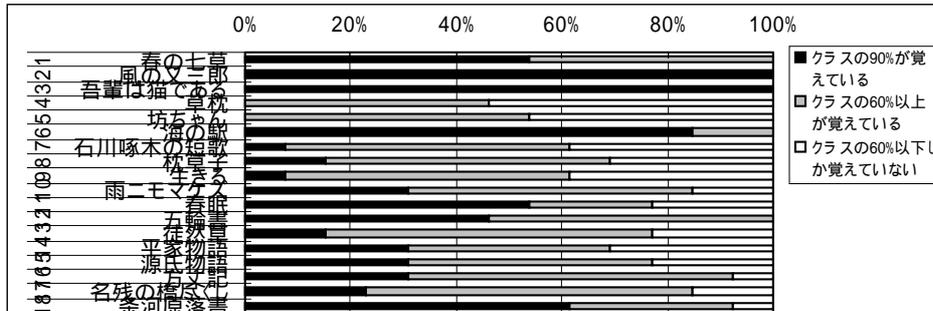
○漢字の読み書きに向上が見られる。  
○日常の学習の中でも、子どもたちから積極的に、国語辞典や漢字辞典を活用するようになっている。

**【音読・暗誦】**

国語科の授業の始めに2分程度取り入れる。

国語の教材文を音読したり、暗誦集の詩や古文（昨年度作成）などを暗誦したりする。読み慣れるために、音読・暗誦カードを作り、家庭学習として実施する。国語科の授業の始めに2分程度取り入れる。

高学年の暗誦率



○音読・暗誦する声は大きくなってきている。  
○家庭の協力もあり、教科書の教材文がスラスラと読めるようになった児童も多い。  
○かけ合い読み、群読など様々な音読の仕方を取り入れることにより、表現力が豊かになってきた。

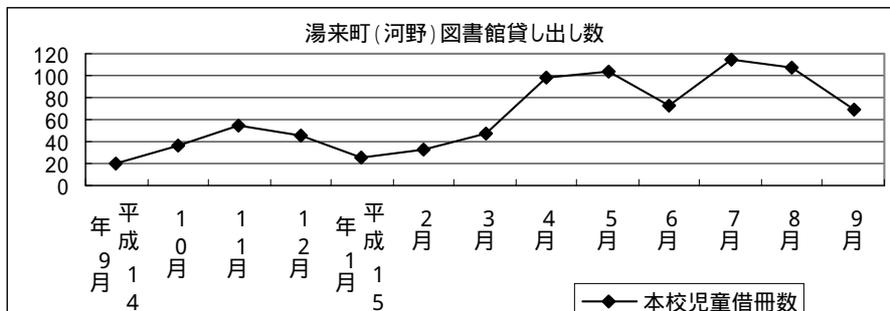
**【読書指導】**

朝の10分間を読書タイムとする。

本大好きカードへ、日付・書名・読んだページ数を記入する。

地域にある河野図書館の司書の方による読み聞かせ

(金曜日の読書タイム(低・中・高別))



○本に対する興味・関心が高まったり、図書館の利用が増えている。  
○本を集中して読む児童が増えた。  
○本を読むスピードが速くなった。  
○落ち着いて1校時の授業に入れるようになった。

## 6 小中連携教育の推進

### [みのちレッスン]

算数科（6年生週1時間）

英語活動（総合的な学習の時間 中・高学年別週1時間ずつ）

#### 英語

○英語に触れることの少ない小学生に、英語を聞いたり話したりする機会を作り、英語に親しみや興味を持たせ、中学校の英語学習に取り組みやすくすることを目的とする。

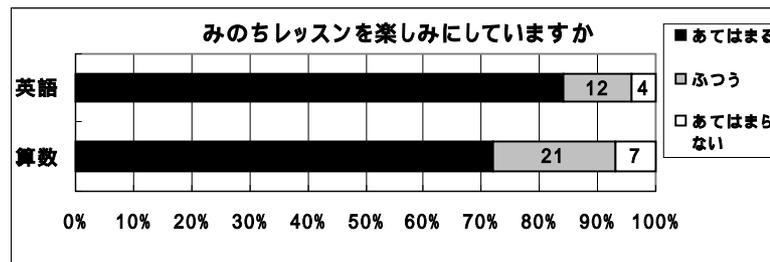
○英語科教員とALT，小学校担任で授業を行う。

- (活動例)
- ・英語であいさつや自己紹介をする。
  - ・英語のかんたんな指示が分かり、それに従って体を動かす。
  - ・数、動物、食べ物、色、体の部分を英語で言う。

#### 算数

○さまざまな授業形態をとるが、多くは習熟度別学習の基本（がっちり）コースを小学校担任が担当し、発展（どんどん）コースを中学校の数学教諭が担当している。そうすることで、算数の授業における、児童の様々なニーズに応えることができるようにする。特に、発展コースを選択する児童の知的好奇心を満たしていく。

- (活動例)
- ・基本コース（小学校担任）と発展コース（中学校教諭）に分かれて、基本コースでは単元のまとめを行い、発展コースではその単元の発展問題を行う。
  - ・一教室で文章題プリントの指導を行う（2人で個別指導にあたる）



○みのちレッスンを行うことで、小中学校間の教員の交流が活発になった。

(英語)

○児童の英語に対する興味を高めることができた。ALTのアイデアを盛り込み、小学生に適した教材の開発ができた。

(算数)

○中学生のつまづきやすい箇所を伝えてもらうことで、小学校担任も日々の指導に生かすことができる。

### [国語科、算数科・数学科9年間のカリキュラム]

3校のCRT学力テストの分析により、国語科では、言語事項、算数・数学科では量と測定、数量関係について作成する。

次のような学習を各学年に、年間を通して配列する。

- ・当該学年、前学年での、その単元に関わる学習内容についてのレディネスを把握したり高めたりするための学習
- ・学習後も忘れないように、継続的に復習し、定着を図るつなぎの学習
- ・補充的な学習や発展的な学習ができるようにするための習熟度別学習

○中学校への見通しを持って指導することができるようになった。

○児童・生徒の学習実態を考えて、学習指導に軽重を付けることができるようになった。

## 2. 今後の課題

### 1 本年度の重点的研究課題である作文指導、文章題指導、習熟度別指導について

#### 〔作文指導〕

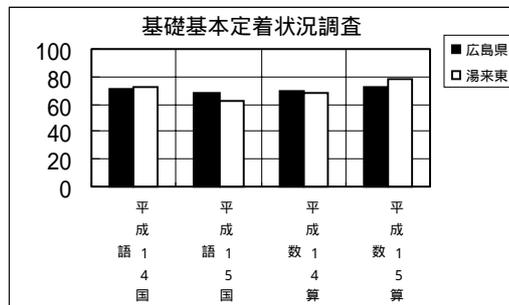
- 作文カルテなど、今後は、児童自身が伸びを意識できるものにしていかなければならない。そのためには、相手・目的意識や構成能力などの作文技能の向上が、子どもたちに見えるものとしていく手だてを考えていく必要がある。
- 作文の数値化を定期的に行い、より課題を明確にしていかなければならない。また、見えてきた課題に対して作文ワークを作成し、個々の課題を克服させていきたい。

#### 〔文章題指導〕

- 文章題指導において、まだまだ個人差があり、絵や図で解決できるようになった児童には、それを式に表せる力を育てていかなければならない。
- 文章題の読み取りが十分できない児童がおり、読書活動や作文指導などとの関連が深く、国語科との連携をとりながら考える力を育てていく必要がある。

#### 〔習熟度別指導〕

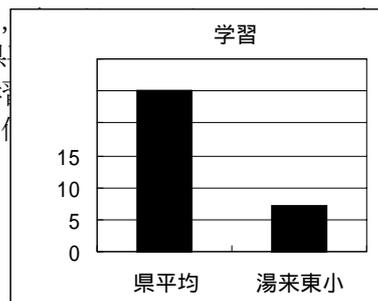
- 小集団学習グループの人数が6～7人となり、本校の児童の力から、特に、基礎・基本のコースのグループでは、多様な考えが出にくくなるという実態がある。いろいろな考えが生み出せるようにする学習方法を考えるとともに、考え合うことよさや楽しさを味わえる学習を展開していかなければならない。
- コースを自分で選択することは、児童にとって算数が好きになった要因の1つであるが、そのコースが必ずしもその児童に合っているものとは限らない。レディネス、復習の時間などを設定しながら、児童一人一人が自己の力を把握し理解できる力を育てていく必要がある。
- カルテをしっかりと活用しながら、一人一人の児童のつまずきを明らかにし、手だてを講じるとともに、学力の高い児童に対しては、次学年につながる力としてさらにどんな学習内容を提示していくべきかを考え、発展的な学習内容を計画的に組み込んでいくことを考えていかなければならない。
- 各単元の学習内容に応じて、どの学習形態が適しているか、担任（高学年は算数専科）とT・Tでよく検討していく。



### 2 次年度への方向性

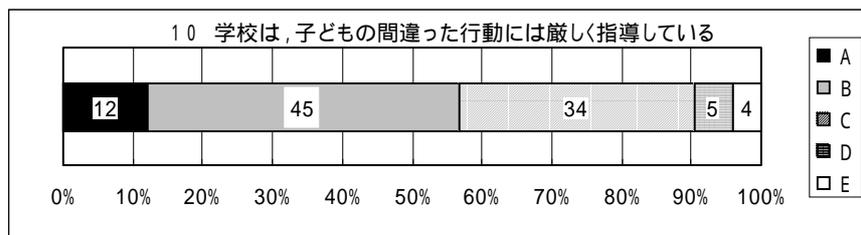
2年間、学力向上に向けて全教職員一丸となって取り組んできた。その結果、1年次の「読み・書き・計算の取組み」、2年次の「考える力を育てる取組み」と、徐々にではあるが、少しずつ児童の学力がつき始めてきた。しかし、県の基礎・基本定着状況調査の結果は、伸び悩んでいる。

その原因として、まず1つ目は、家庭学習の習慣が、  
れる。「家庭で、宿題以外の勉強を進めます」が県  
、7.1%とかなり低い結果が出ている。主体的な学  
ここから切り込んでいく必要がある。子どもたちは、  
らないのである。児童に対しては、家庭学習の手引  
き、保護者に対しては、シラバス等で具体的に、家  
庭学習のあり方について啓発していく必要がある。  
そのためには、保護者と協力して、定着するまで、  
家庭と学校の双方で点検するシステムを作っていく



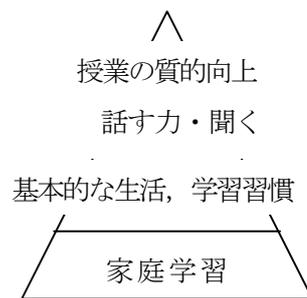
に対しては、シラバス等で具体的に、家庭学習のあり方について啓発していく必要がある。そのためには、保護者と協力して、定着するまで、家庭と学校の双方で点検するシステムを作っていくことが必要であろう。(家庭学習の習慣化)

2つ目は、集中して授業に向かう姿勢が十分に身に付いていないということである。保護者に対する学校評価では、「学校は子どもたちの間違った行動に対して厳しく指導している」が、56%と低い。学校での生活、学習での「基本的な生活習慣」「学習規律」を身につけさせていかなければならない。これは、学習の一番基本的な土台と考えたい。(基本的な生活習慣・学習規律)



3つ目は、学習が受け身的で、自ら考えたり、友だちと練り合い高めるものになっていないことが挙げられる。研究授業での授業評価表からも「様々な考えを引き出す発問をしているか」「児童の思考を深める発問をしているか」の評価型の観点に比べて低いという結果が出ていた。質の高い授業とは、少なくとも「一問一答」や「一方的な説明」ではなく、多様な考えを引き出せる発問により、子どもたちからたくさんの意見が出て、それが噛み合う授業、言い換えれば「討論の起きる授業」を仕組む必要があり、指導力の向上をめざしていかなければならない。(授業の質的向上)

そのためには、子どもたちの「話す力・聞く力」の育成が今後は大切になってくる。国語科では、相手や目的、意図に応じ、筋道立てて話したり、相手の話の中心や意図を聞き取ったりする力が求められる。算数科での思考を深める力を育てるためには、自立解決的な学習とあわせて、集団思考的な学習を行っていく必要がある。集団思考的な学習は、本校の大きな課題であるが、国語科との連携を図りながら、自分や友だちの考えのよさを見つけ合う学び合いの場を充実していくことを今後はさらに考えていかなければならないと考える。(話す・聞く力の育成)



#### IV 学力等把握のための学校としての取組み

##### 調査の目的

- 県平均及び全国平均と本校を比較して、全体の達成状況を把握するとともに、一人一人の児童と平均を比較して、個々の課題を把握する。
- 次年度の研究主題設定のための実態把握とする。

##### 実施内容

- 広島県基礎・基本定着状況調査  
6月…第5学年対象
- CRT学力調査  
4月…第2～6学年対象 (国語・算数)  
1月…第1～6学年対象 (国語・算数)

##### 学校評価

- 学習・生活意識調査  
7月・1月…第3～6学年対象

V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

○平成15年度学力向上フロンティアスクール湯来東小研究発表会  
 日時 平成15年11月17日(月) 12:30~16:50  
 場所 湯来東小学校  
 対象 県内小中学校教員(115名)・保護者・地域  
 目的 研究成果の普及と課題把握

○教育懇談会(年3回)  
 日時 平成15年7月1日(火)・9月12日(金)・2月下旬予定 19:30~  
 場所 湯来東小学校  
 対象 保護者  
 目的 学校評価の結果の公表, 児童の実態・研究内容や次年度に向けての取組みの方向性について説明

○開発した教材をCDに集約し配布する。(研究公開時)  
 発展的な学習教材, 文章題プリント, 計算プリント, 漢字検定テスト, 音読・暗誦集

○ホームページによる本校研究の公開  
 研究内容, 各学年の取り組み, 開発教材  
<http://www.yukihigashi-e.ed.jp>

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               6学級以下                       7~12学級  
                                   13~18学級                       19~24学級  
                                   25学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       T. Tによる指導  
                                   一部教科担任制                   その他
- 【研究教科】               国語               社会               算数               理科  
                                   生活               音楽               図画工作       家庭  
                                   体育               その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有               無